

高齢者を取り巻く環境

第3章

1. 県内高齢者の現状と将来推計
2. 介護保険給付の現状
3. 高齢者施策に係る国の動き等



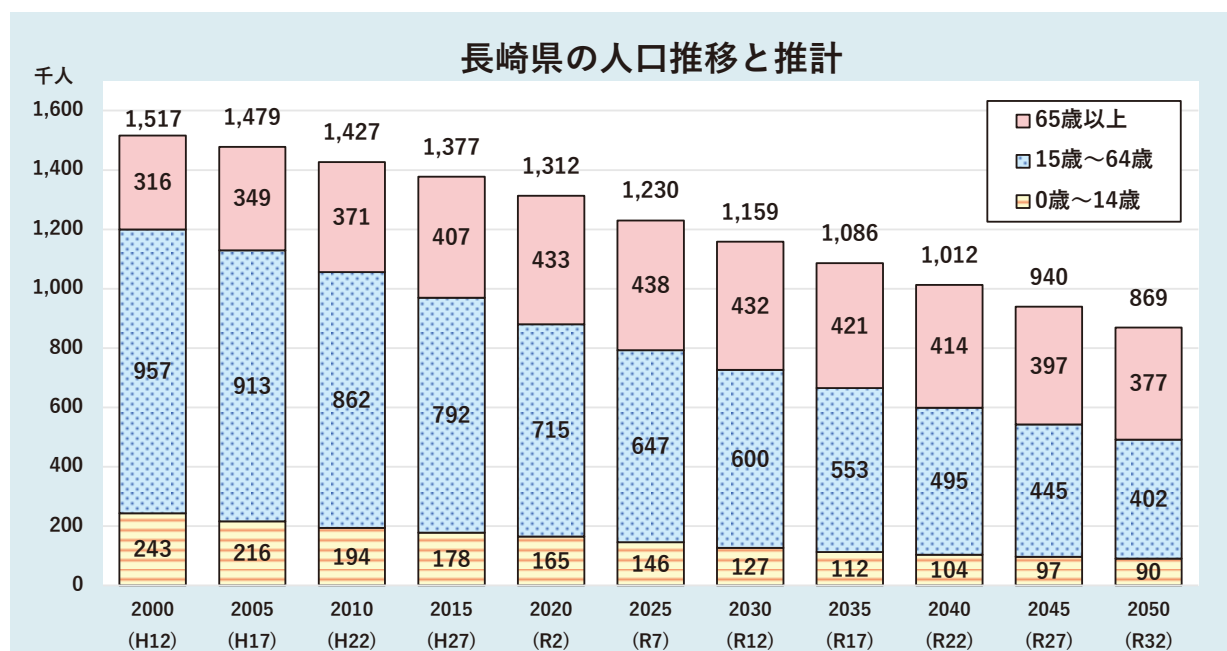
1. 県内高齢者の現状と将来推計

(1) 高齢化の状況

① 人口構造の変化

本県の人口は、1960（昭和 35）年の約 176 万人をピークに、1985（昭和 60）年以降毎年減少が続いており、今後もその傾向は続いていくものと推測されます。

65 歳以上（高齢者）の人口（老年人口）と 15 ～ 64 歳（現役世代）の人口（生産年齢人口）の比率をみると、介護保険制度が始まった 2000（平成 12）年には 1 人の高齢者に対して 3.0 人の現役世代がいたのに対して、2025（令和 7）年には 1 人の高齢者に対して 1.5 人の現役世代になると見込まれており、その後、老年人口は減少に転じますが、少子化の影響から高齢化率は上昇を続け、2040（令和 22）年には、1 人の高齢者に対して 1.2 人の現役世代という比率になると見込まれています。



(単位: 千人、%)

	2000年 (H12)	2005年 (H17)	2010年 (H22)	2015年 (H27)	2020年 (R2)	2025年 (R7)	2030年 (R12)	2035年 (R17)	2040年 (R22)	2045年 (R27)	2050年 (R32)
総人口	1,517 (100.0)	1,479 (100.0)	1,427 (100.0)	1,377 (100.0)	1,312 (100.0)	1,230 (100.0)	1,159 (100.0)	1,086 (100.0)	1,012 (100.0)	940 (100.0)	869 (100.0)
内訳	高齢者人口 65歳以上	316 (20.8)	349 (23.6)	371 (26.0)	407 (29.6)	433 (33.0)	438 (35.6)	432 (37.3)	421 (38.8)	414 (40.9)	397 (42.3)
	生産年齢人口 15歳～64歳	957 (63.1)	913 (61.8)	862 (60.4)	792 (57.5)	715 (54.5)	647 (52.6)	600 (51.8)	553 (50.9)	495 (48.9)	445 (47.4)
	年少人口 0歳～14歳	243 (16.0)	216 (14.6)	194 (13.6)	178 (12.9)	165 (12.5)	146 (11.8)	127 (10.9)	112 (10.3)	104 (10.2)	97 (10.3)

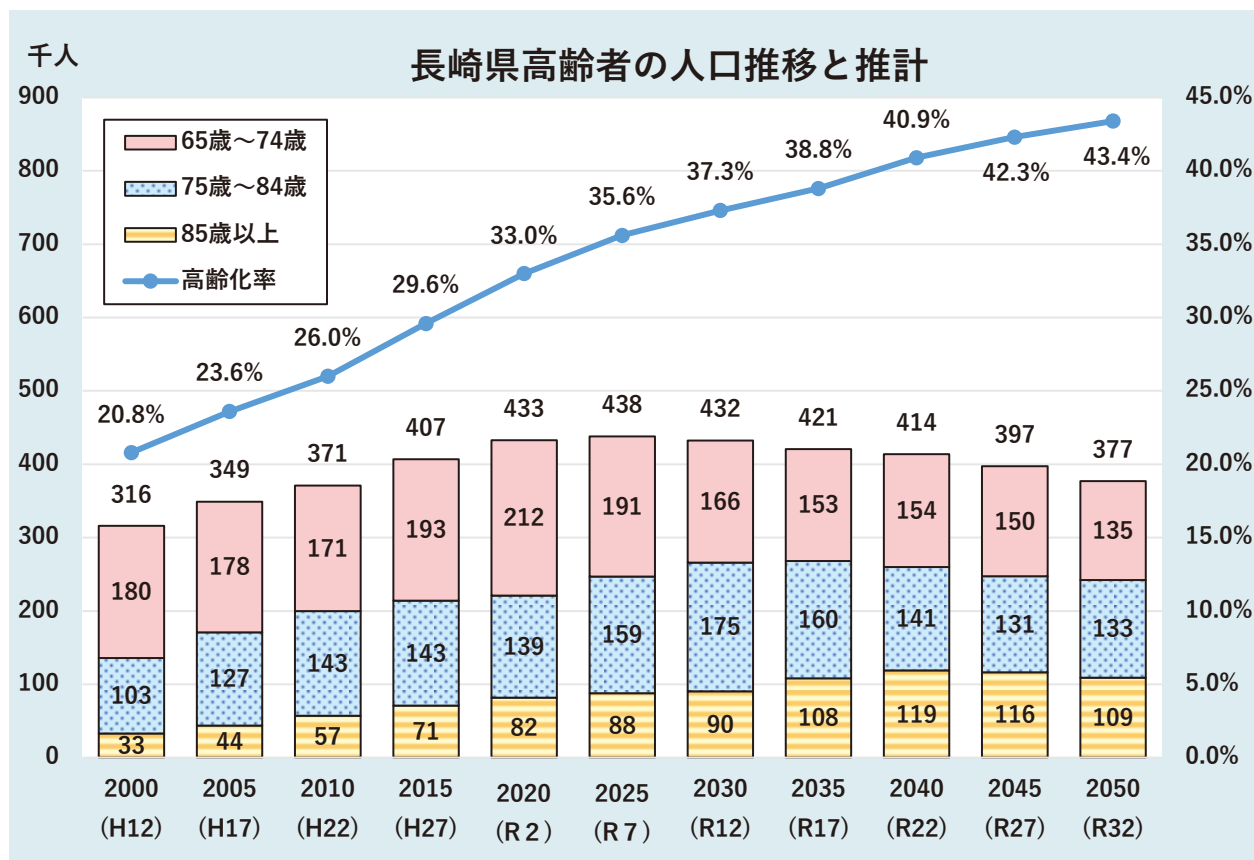
出典：平成12年～令和2年は国勢調査（平成27年及び令和2年は不詳補完値による）、令和7年以降は令和2年国勢調査を基にした国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」

※（ ）は総人口に占める割合

これまで増加を続けてきた本県の65歳以上の人口も、2025（令和7）年頃に約44万人（総人口比35.6%）のピークを迎え、以降は減少すると推測されています。

75歳以上の人口は、その後も一定期間増加を続け、2035（令和17）年頃にピークの約27万人（総人口比24.7%）に達すると見込まれています。

また、介護ニーズが高い85歳以上の人口は、2040（令和22）年頃にピークの約12万人（総人口比11.8%）に達すると見込まれています。



（単位：千人、％）

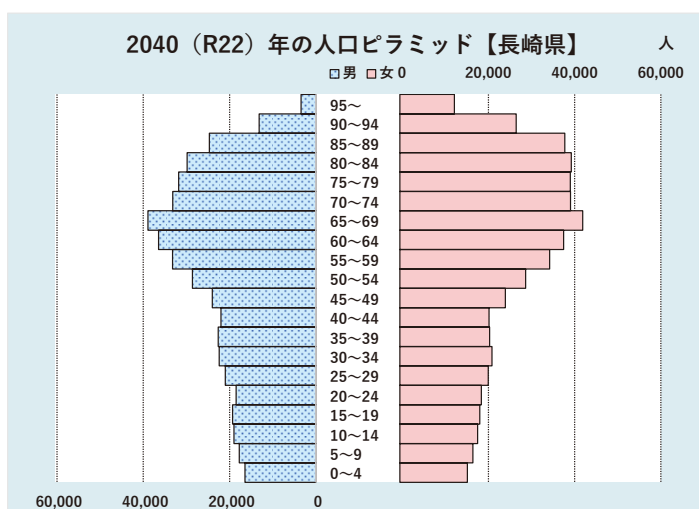
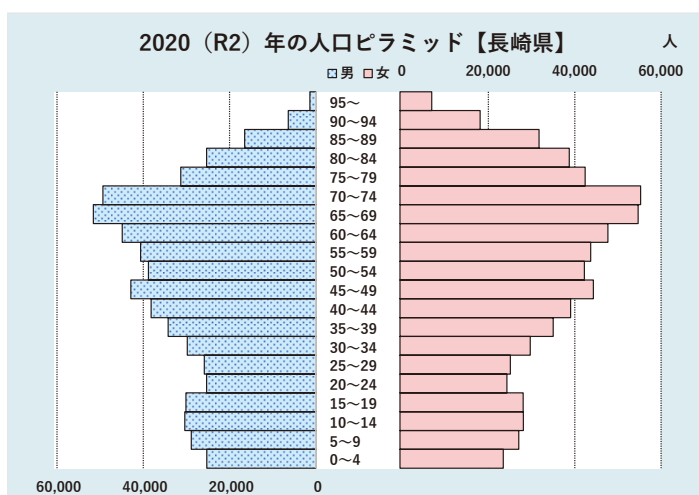
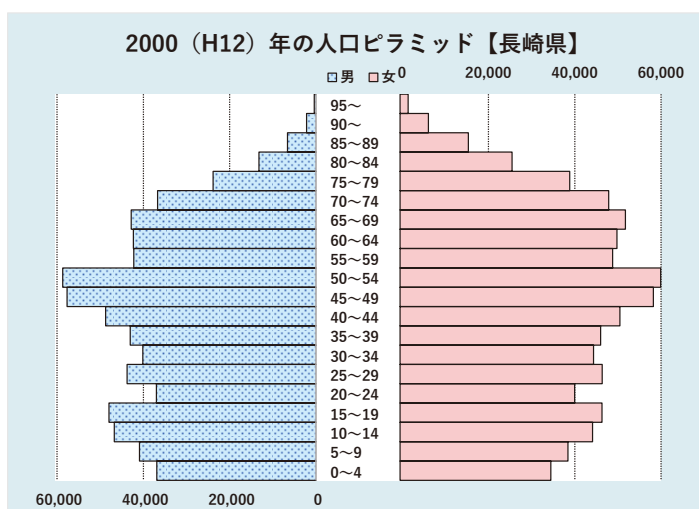
		2000年 (H12)	2005年 (H17)	2010年 (H22)	2015年 (H27)	2020年 (R2)	2025年 (R7)	2030年 (R12)	2035年 (R17)	2040年 (R22)	2045年 (R27)	2050年 (R32)
高齢者人口 65歳以上	長崎県	316 (20.8)	349 (23.6)	371 (26.0)	407 (29.6)	433 (33.0)	438 (35.6)	432 (37.3)	421 (38.8)	414 (40.9)	397 (42.3)	377 (43.4)
	全 国	22,005 (17.3)	25,672 (20.1)	29,484 (23.0)	33,790 (26.6)	36,027 (28.6)	36,529 (29.6)	36,962 (30.8)	37,732 (32.3)	39,285 (34.8)	39,451 (36.3)	38,878 (37.1)
上記の内 75歳以上	長崎県	136 (9.0)	171 (11.6)	200 (14.0)	214 (15.5)	221 (16.9)	247 (20.1)	266 (23.0)	268 (24.7)	260 (25.7)	247 (26.3)	242 (27.9)
	全 国	8,999 (7.1)	11,602 (9.1)	14,194 (11.1)	16,271 (12.8)	18,602 (14.7)	21,547 (17.5)	22,613 (18.8)	22,384 (19.2)	22,275 (19.7)	22,772 (20.9)	24,332 (23.2)
上記の内 85歳以上	長崎県	33 (2.2)	44 (3.0)	57 (4.0)	71 (5.2)	82 (6.3)	88 (7.1)	90 (7.8)	108 (10.0)	119 (11.8)	116 (12.4)	109 (12.5)
	全 国	2,233 (1.8)	2,927 (2.3)	3,795 (3.0)	4,923 (3.9)	6,133 (4.9)	7,073 (5.7)	8,121 (6.8)	9,810 (8.4)	10,060 (8.9)	9,583 (8.8)	9,612 (9.2)

出典：平成12年～令和2年は国勢調査（平成27年及び令和2年は不詳補完値による）、令和7年以降は令和2年国勢調査を基にした
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」

※（ ）は総人口に占める割合

本県の人口構成を年代ごとに図式化して推移をみると、介護保険制度が始まった2000（平成12）年は、つぼ型であったのが、2020（令和2）年には、中心部がくぼんだ釣鐘型に推移しています。

今後、年を経るにしたがって、出生数の減少で裾は年々狭まり、2040（令和22）年には特に90歳以上が多くなることがわかります。

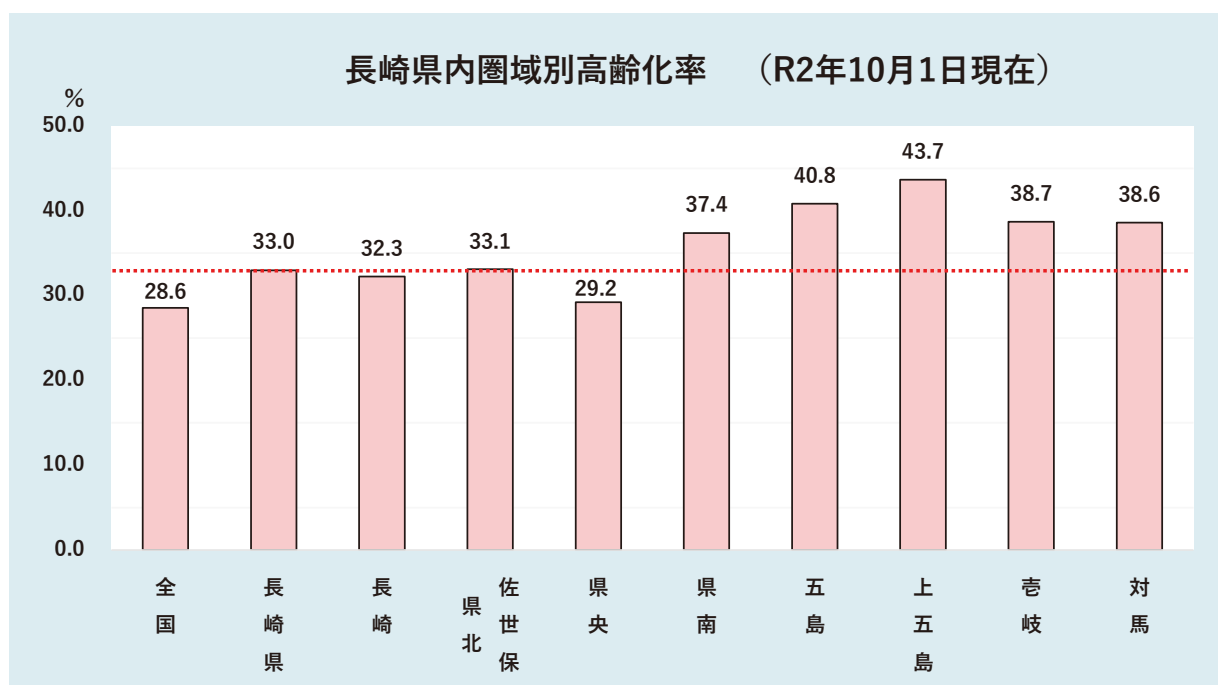


資料：2000 年は国勢調査。2020 年、2040 年は「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）国立社会保障・人口問題研究所

② 老人福祉圏域別の状況

本県の圏域別での高齢化率の状況を見ると、全ての圏域で全国平均の28.6%を超えており、特に、上五島圏域においては、43.7%に達しています。

また、中長期的な人口動態として、2020（令和2）年を1とした場合に2040（令和22）年の65歳以上人口が何倍になるかを見ると、長与町や大村市で1.2倍を超える伸びが見込まれる一方、離島部などでは0.8倍程度に減少する見込みです。また、同じく85歳以上人口では、県内いずれの市町でも増加が見込まれますが、その伸び率には差があります。各市町の中長期的なサービス需要を把握したうえで、介護サービスを整備していくことが重要です。

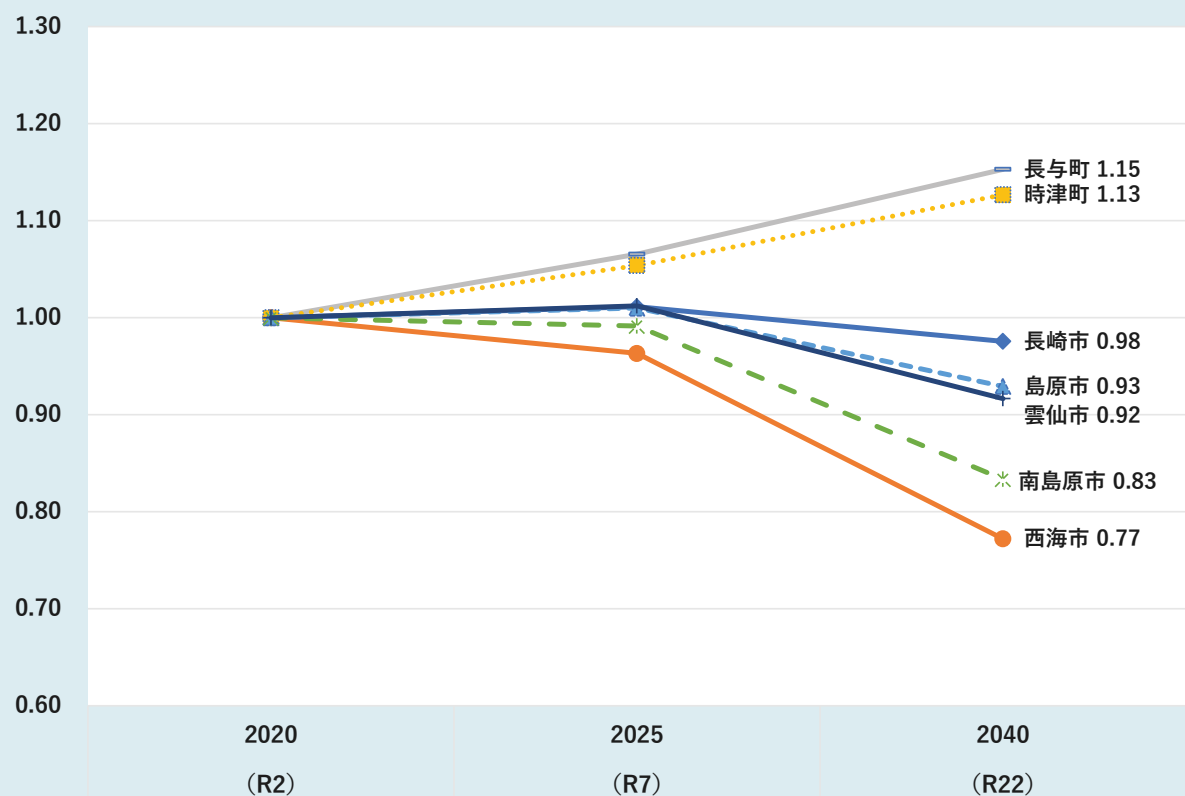


（単位：人、％）

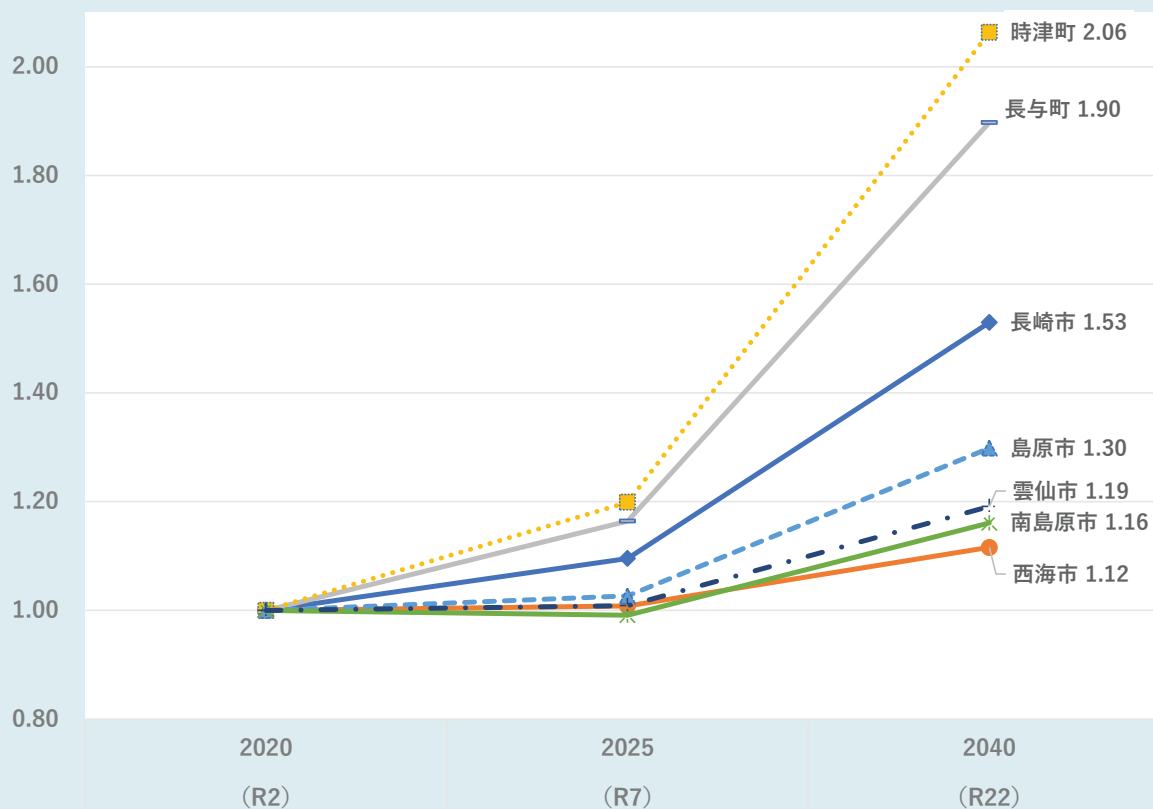
	全 国 (千人)	長崎県 (全体)	老人福祉圏域							
			長崎	佐世保 県北	県央	県南	五島	上五島	壱岐	対馬
総人口	126,146	1,312,317	505,512	307,771	264,638	126,764	34,391	19,791	24,948	28,502
40歳以上	78,492	857,866	328,429	197,928	164,616	88,546	25,365	15,341	17,428	20,213
65歳以上 (高齢化率)	36,027 (28.6)	433,018 (33.0)	163,097 (32.3)	101,866 (33.1)	77,330 (29.2)	47,379 (37.4)	14,047 (40.8)	8,640 (43.7)	9,659 (38.7)	11,000 (38.6)
75歳以上	18,602 (14.7)	221,180 (16.9)	82,025 (16.2)	52,069 (16.9)	38,497 (14.5)	25,520 (20.1)	7,503 (21.8)	4,666 (23.6)	5,281 (21.2)	5,619 (19.7)
85歳以上	6,133 (4.9)	82,398 (6.3)	29,817 (5.9)	19,362 (6.3)	13,891 (5.2)	10,317 (8.1)	2,999 (8.7)	1,802 (9.1)	2,190 (8.8)	2,020 (7.1)

出典：令和2年国勢調査（年齢別人口及び構成割合は不詳補完値による）

2020年を1とした場合の65歳以上人口推移
(長崎・県南圏域)

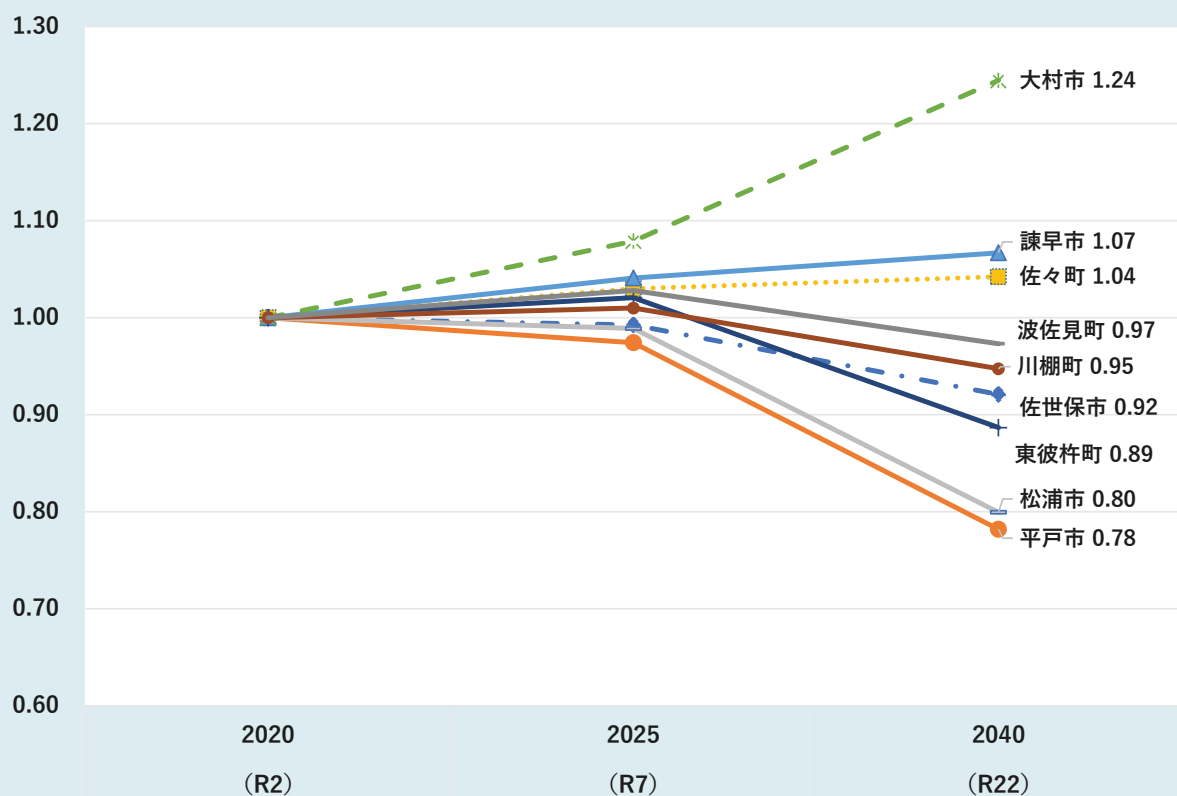


2020年を1とした場合の85歳以上人口推移
(長崎・県南圏域)

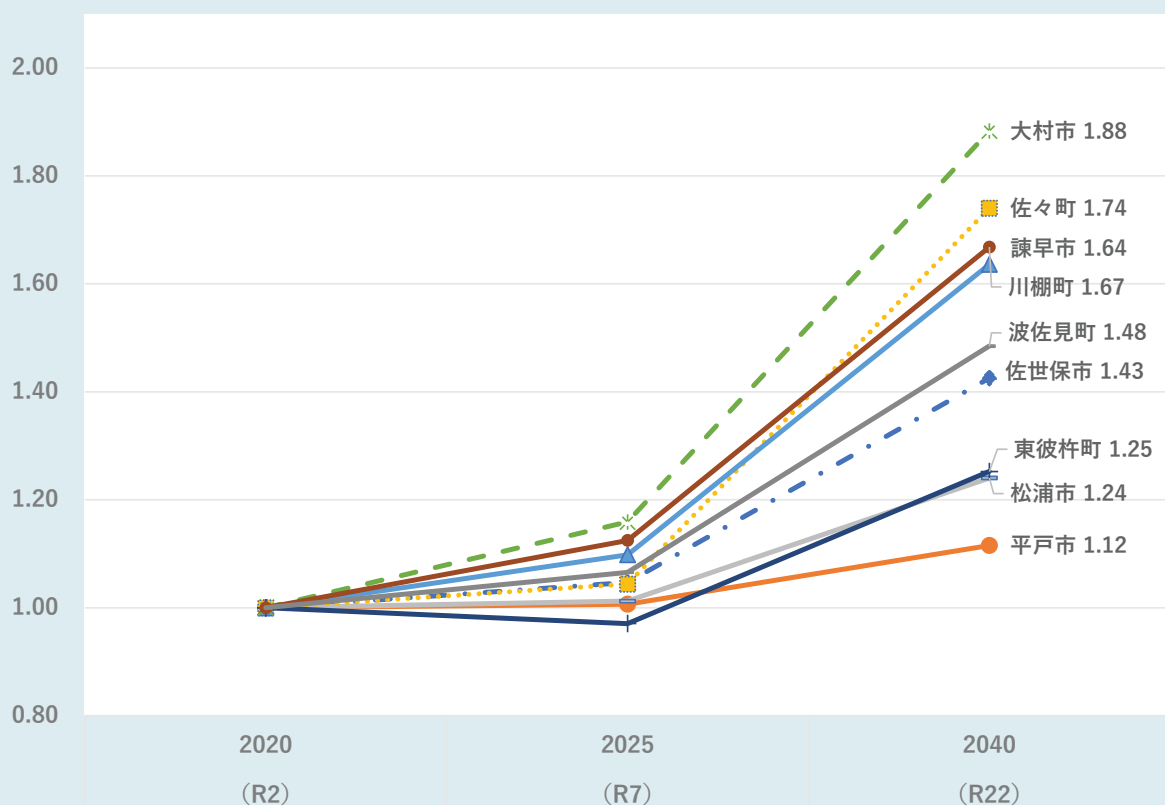


出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」を基に長崎県長寿社会課で作成

2020年を1とした場合の65歳以上人口推移
(佐世保県北・県央圏域)

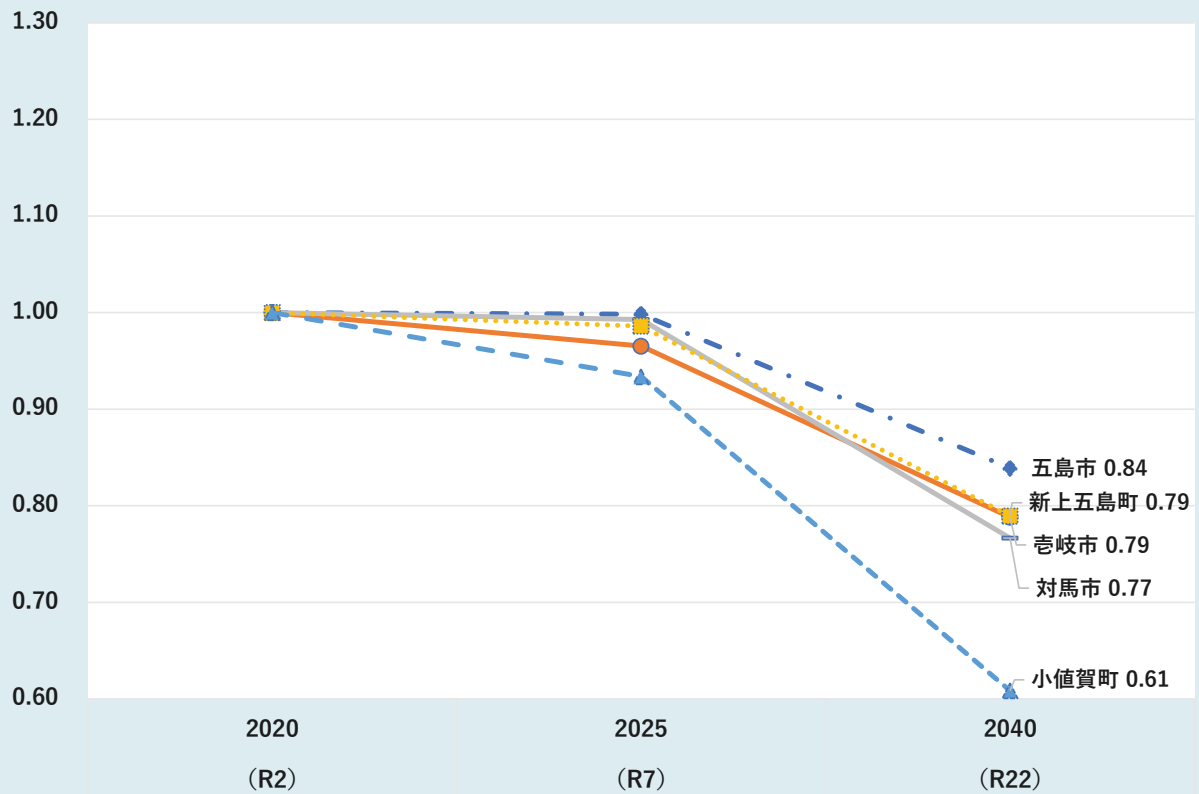


2020年を1とした場合の85歳以上人口推移
(佐世保県北・県央圏域)

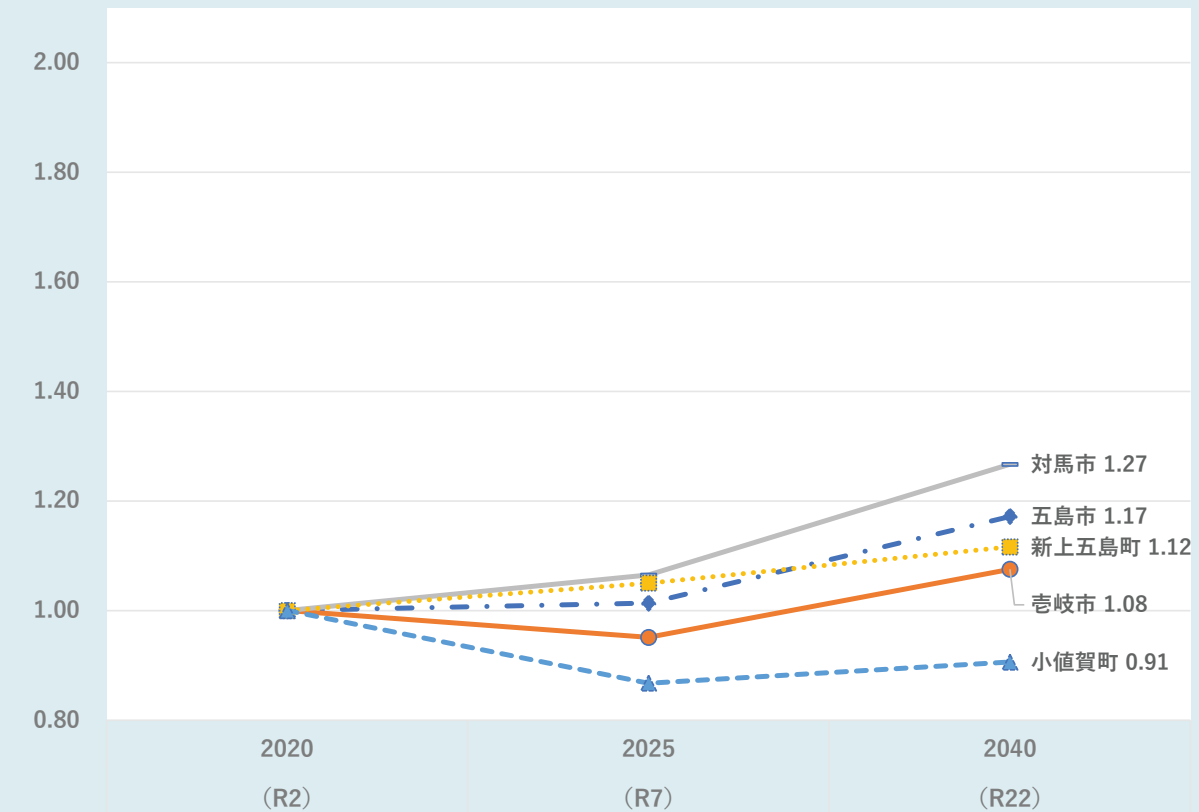


出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」を基に長崎県長寿社会課で作成

2020年を1とした場合の65歳以上人口推移
(離島圏域)



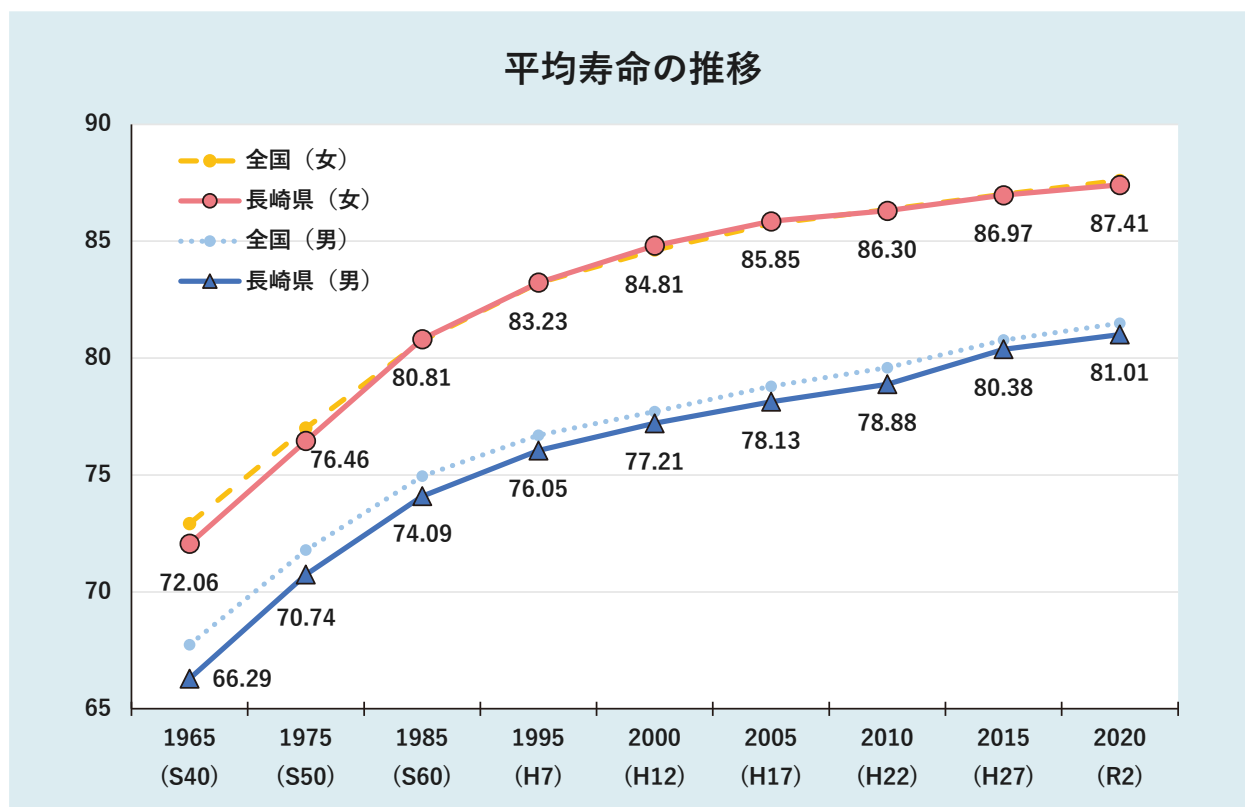
2020年を1とした場合の85歳以上人口推移
(離島圏域)



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」を基に長崎県長寿社会課で作成

③ 平均寿命・健康状況

2020（令和2）年の本県の平均寿命は、男性が81.01年、女性が87.41年となっており、2015（平成27）年に比べ、男性が0.63年、女性が0.44年延びています。



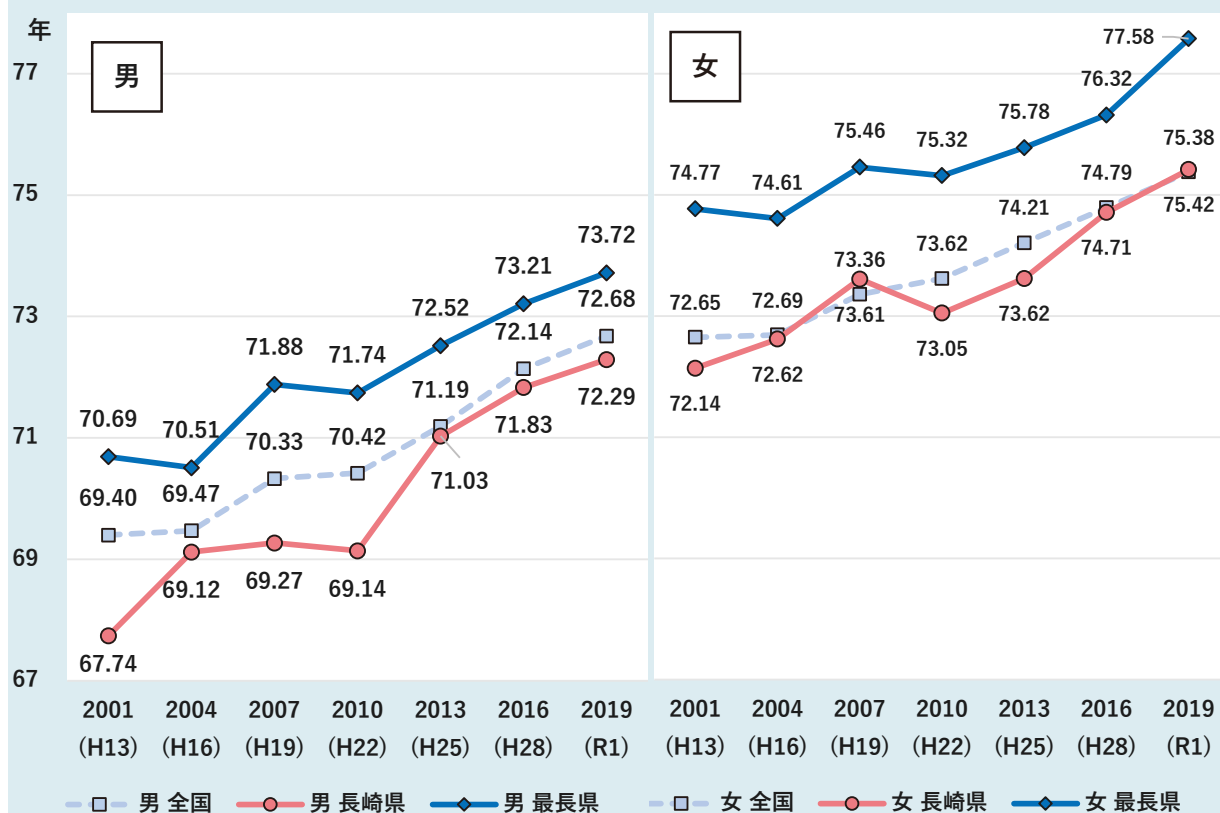
（単位：年）

		1965 (S40)	1975 (S50)	1985 (S60)	1995 (H7)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)
男	長崎県 (全国順位)	66.29 (43位)	70.74 (38位)	74.09 (43位)	76.05 (38位)	77.21 (33位)	78.13 (37位)	78.88 (43位)	80.38 (31位)	81.01 (36位)
	全 国	67.74	71.79	74.95	76.70	77.71	78.79	79.59	80.77	81.49
女	長崎県 (全国順位)	72.06 (40位)	76.46 (38位)	80.81 (24位)	83.23 (28位)	84.81 (19位)	85.85 (22位)	86.30 (26位)	86.97 (28位)	87.41 (34位)
	全 国	72.92	77.01	80.75	83.22	84.62	85.75	86.35	87.01	87.60

出典：厚生労働省「令和2年都道府県別生命表の概況」

本県の健康寿命は、2019（令和元）年は男性72.29年、女性75.42年と年々延伸傾向にあります。男性では全国平均を下回っている一方、女性では全国平均をわずかに上回りましたが、最長県（男性：大分県、女性：三重県）と比べると、女性で2.16年、男性で1.43年の差があります。

健康寿命の推移



出典：厚生労働省

高齢者がより元気に、より豊かに生活するためには、一人ひとりが栄養、運動などに配慮した健康的な生活習慣を心がけることが必要ですが、こうした生活習慣の改善や健康の保持増進には、高齢者となる前の40代、50代のうちから取り組むことが重要です。

食事、運動、喫煙、ストレスなどの生活習慣が原因で起こる生活習慣病で、本県の死亡率が全国7位※である「がん」だけでなく、自覚症状が現れないうちに発症する「糖尿病」や「循環器疾患」などもそのまま放置すると合併症を併発するなどして重症化し、生活の質を大きく低下させます。

糖尿病は脳血管疾患や虚血性心疾患などの動脈硬化性疾患の危険因子となる慢性疾患ですが、放置すると糖尿病性網膜症による失明、糖尿病性神経障害に伴う足の潰瘍や壊死などの深刻な状況に陥ることもあります。

また、脳血管疾患と虚血性心疾患を含む循環器疾患の後遺症は、生活の質の低下を招く大きな原因になっており、特に脳血管疾患は、「寝たきり」の主要な原因となっています。

糖尿病の人口10万人当たりの入院及び外来患者数は、総数、65歳以上ともに全国を上回っており、総数で入院患者数は全国6位、外来患者数は全国4位となっています。

※ 死亡率が全国第7位：75歳未満年齢調整死亡率（総数）。2021年人口動態統計に基づく国立がん研究センター計算値。

また、高齢者（65歳以上）10万人当たりの心疾患による入院患者数は213人で全国5位、高血圧性循環器系疾患による入院患者数は34人で全国4位、外来患者数は全国1位となっているなど、全国平均と比較すると非常に高い数字となっています。

入院及び外来患者数（人口10万対）

（単位：人）

		総数		65歳以上	
		長崎県 (全国順位)	全国	長崎県 (全国順位)	全国
糖尿病	入院	20 (6位)	12	50 (10位)	33
	外来	230 (4位)	170	486 (7位)	416
心疾患	入院	74 (4位)	46	213 (5位)	144
	外来	123 (12位)	103	314 (15位)	282
高血圧性 循環器系疾患	入院	11 (4位)	4	34 (4位)	12
	外来	696 (2位)	471	1,717 (1位)	1,295

出典：患者調査（R2）

血圧の高さの平均値は、男性が全国9位、女性が全国5位となっており、男女とも全国の中で高い水準となっています。

また、血圧を抑えるために重要とされる野菜の摂取量については、男性が全国42位、女性が全国39位と低い水準となっており、日常生活における一日の歩数については男性が全国34位、女性が13位という結果になっています。

	男性		女性		出典
	長崎県 (全国順位)	全国	長崎県 (全国順位)	全国	
収縮期血圧 (mmhg)	129.00 (9位)	127.41	123.60 (5位)	121.73	第7回NDBオープンデータ
野菜の摂取量	269.1 g/日 (42位)	284.2 g/日	248.6 g/日 (39位)	270.0 g/日	国民健康栄養調査 (H28)
日常生活における 一日の歩数	7,061歩 (34位)	7,779歩	6,929歩 (13位)	6,776歩	

生活習慣病予防については、メタボリックシンドロームの考え方に着目した特定健診・特定保健指導が導入されています。メタボリックシンドロームとは、内臓脂肪型肥満に加え脂質異常、血圧高値、血糖高値のうち２つ以上を併せ持っている状態のことですが、2021（令和３）年度メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合等は31.1％と全国の29.1％より高い状況にあります。

また、特定健康診査・特定保健指導に関するデータ（厚生労働省）によると、2021（令和３）年度の長崎県の特定健康診査受診率は48.8％（全国順位46位）、また、特定保健指導の実施率は32.2％（全国順位6位）となっています。

	長崎県 (全国順位)	全国	出典
メタボリックシンドローム 該当者割合	18.0% (36位)	16.6%	2021(R3)年度 特定健康診査・特定保健指導実施状況 (厚生労働省)
メタボリックシンドローム 予備軍割合	13.2% (43位)	12.5%	
メタボリックシンドローム 該当者及び予備軍割合	31.1%	29.1%	
特定健康診査受診率	48.8% (46位)	56.2%	2021(R3)年度 特定健康診査・特定保健指導に関する データ（厚生労働省）
特定保健指導実施率	32.2% (6位)	24.7%	

④ 認知症の状況

高齢化の進展に伴い、認知症高齢者の数は、2012（平成24）年では、65歳以上の7人に1人であったものが、2025（令和7）年では5人に1人となり、本県においても2025（令和7）年には、8万4千人になるものと推測されています。

長崎県における認知症高齢者の将来推計

（１）各年齢の認知症有病率が一定の場合

（単位：千人）

	2015 (H27)	2020 (R2)	2025 (R7)	2030 (R12)	2040 (R22)	2040/2015 比率
総人口	1,377	1,321	1,258	1,192	1,054	76.5%
高齢者数	408	436	442	437	417	102.2%
高齢化率	29.6%	33.0%	35.1%	36.7%	39.6%	—
有病率	15.7%	17.2%	19.0%	20.8%	21.4%	
認知症者数	64.1	75.0	84.0	90.9	89.2	139.2%

(2) 各年齢の認知症有病率が上昇する場合

(単位：千人)

	2015 (H27)	2020 (R2)	2025 (R7)	2030 (R12)	2040 (R22)	2040/2015 比率
総人口	1,377	1,321	1,258	1,192	1,054	76.5%
高齢者数	408	436	442	437	417	102.2%
高齢化率	29.6%	33.0%	35.1%	36.7%	39.6%	—
有病率	16.0%	18.0%	20.6%	23.2%	25.4%	
認知症患者数	65.3	78.5	91.1	101.4	105.9	162.2%

※1：「総人口」及び「高齢者数」は、「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018））年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）に基づくもの。

※2：「有病率」は、「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」（平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業九州大学二宮教授）に基づくもの。なお、（1）は各年齢層の認知症有病率が2012年以降一定と仮定した場合、（2）は各年齢層の認知症有病率が2012年以降も糖尿病有病率の増加により上昇すると仮定した場合。

(2) 高齢者の生活状況

① 高齢者世帯の動向

本県の2020（令和2）年における一般世帯総数は約55万6千世帯で、そのうち高齢者単独世帯は約8万4千世帯（総世帯に占める割合は15.1%）、高齢夫婦世帯は約8万世帯（総世帯に占める割合は14.3%）となっています。いずれも全国と比較して高い割合で推移しています。高齢者単独世帯は今後も増加を続ける見込みであり、2025（令和7）年には、両者を合わせて30%を超えることが推測されています。

(単位：世帯・%)

	2000年 (H12)	2005年 (H17)	2010年 (H22)	2015年 (H27)	2020年 (R2)	2025年 (R7)	2030年 (R12)	2035年 (R17)	2040年 (R22)
一般世帯総数	542,985	551,530	556,895	558,380	556,130	540,125	522,851	500,857	473,987
高齢者 単独世帯	49,819 (9.2)	56,867 (10.3)	63,245 (11.4)	73,610 (13.2)	83,871 (15.1)	88,993 (16.5)	91,879 (17.6)	93,061 (18.6)	93,509 (19.7)
高齢夫婦 世帯※	53,430 (9.8)	60,264 (10.9)	64,848 (11.6)	72,147 (12.9)	79,510 (14.3)	81,615 (15.1)	79,462 (15.2)	75,165 (15.0)	72,441 (15.3)
その他の 一般世帯	439,736 (81.0)	434,399 (78.8)	428,802 (77.0)	412,623 (73.9)	392,749 (70.6)	369,517 (68.4)	351,510 (67.2)	332,631 (66.4)	308,037 (65.0)

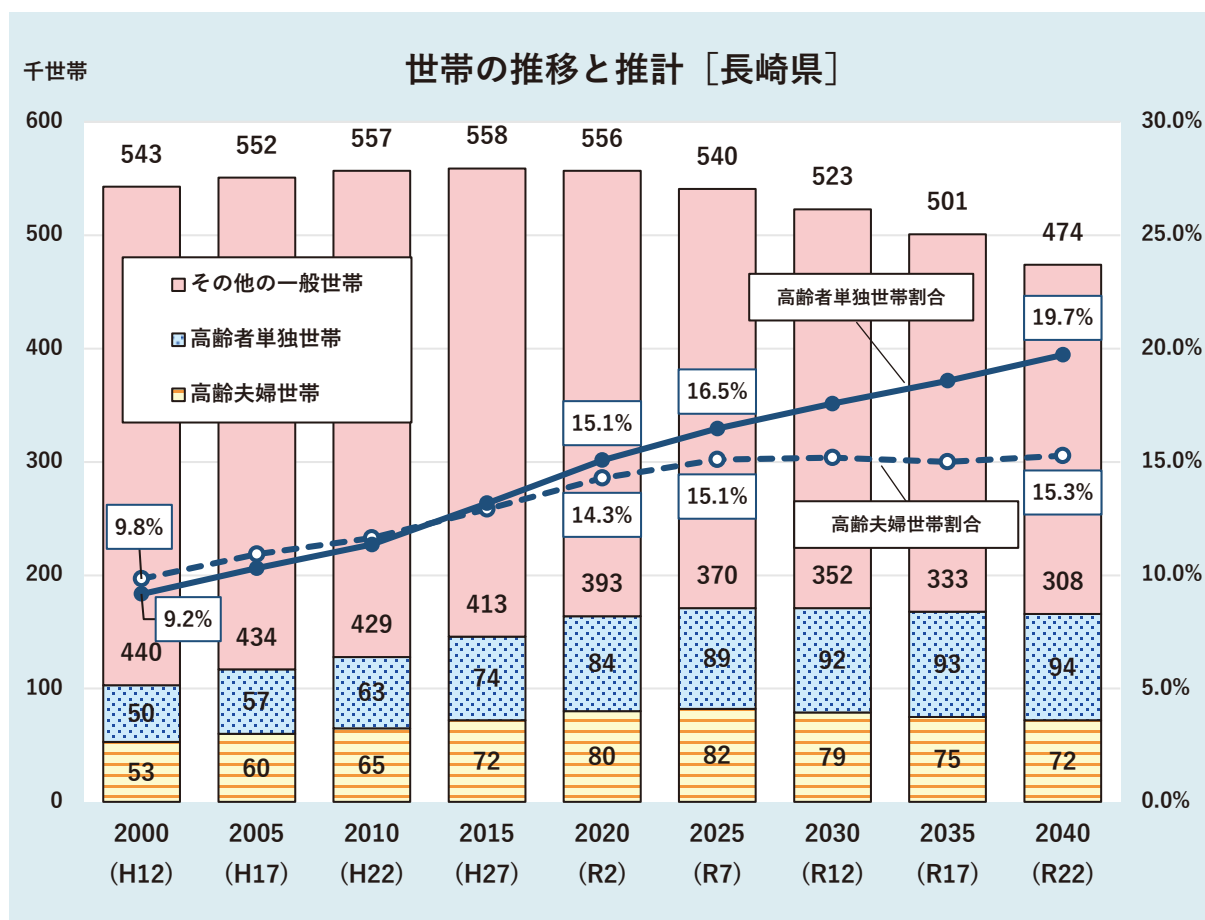
【参考：全国の世帯割合】

高齢者 単独世帯	(6.5)	(7.9)	(9.2)	(11.1)	(12.1)	(13.9)	(14.9)	(16.1)	(17.7)
高齢夫婦 世帯※	(7.8)	(9.1)	(10.1)	(11.4)	(11.7)	(12.5)	(12.5)	(12.7)	(13.5)

出典：2020(R2)年までは国勢調査、2025(R7)年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）（2019(R1)年推計）」

※（ ）は一般世帯総数に占める割合

※ 高齢夫婦世帯は、2020(R2)年までは夫65歳以上・妻60歳以上の夫婦のみの世帯、2025(R7)年以降は世帯主が65歳以上の世帯



また、圏域別に見ると、上五島で一般世帯に占める高齢者単独世帯の割合が22.9%、高齢夫婦の割合が18.5%、両者を合わせて41.4%となるなど、離島を中心に極めて高い割合となっています。

(単位：世帯、%)

	長崎県	老人福祉圏域							
		長崎	佐世保 県北	県央	県南	五島	上五島	壱岐	対馬
一般世帯総数	556,130	225,507	129,753	104,748	47,896	16,387	9,491	9,706	12,642
高齢者 単独世帯	83,871 (15.1)	33,447 (14.8)	20,537 (15.8)	12,605 (12.0)	7,409 (15.5)	3,701 (22.6)	2,178 (22.9)	1,728 (17.8)	2,266 (17.9)
高齢夫婦 世帯	79,510 (14.3)	31,329 (13.9)	18,079 (13.9)	14,190 (13.5)	7,534 (15.7)	2,952 (18.0)	1,756 (18.5)	1,465 (15.1)	2,205 (17.4)
その他の 一般世帯	392,749 (70.6)	160,731 (71.3)	91,137 (70.2)	77,953 (74.4)	32,953 (68.8)	9,734 (59.4)	5,557 (58.6)	6,513 (67.1)	8,171 (64.6)

出典：国勢調査（令和2年）

※（ ）は一般世帯総数に占める割合

※高齢夫婦世帯は、夫65歳以上・妻60歳以上の夫婦のみの世帯

② 高齢者世帯の住居の動向

本県では、一般世帯の持ち家率が63.9%に対し、「世帯主65歳以上の世帯」の持ち家率が82.2%、中でも「夫婦のみの世帯」が87.9%と高くなっています。

また、「単身世帯」では、70.2%と他に比べると低くなっているものの、全国の66.0%に比べて高い持ち家率となっています。

住居の状況

(単位：世帯・%)

		一般世帯数		世帯主65歳以上の世帯		うち単身世帯		うち夫婦のみの世帯	
		長崎県	全国の割合	長崎県	全国の割合	長崎県	全国の割合	長崎県	全国の割合
計		556,130		245,631		83,871		81,799	
持ち家		355,486 (63.9)	(60.6)	201,900 (82.2)	(81.1)	58,898 (70.2)	(66.0)	71,932 (87.9)	(88.2)
借家	公営・公団 公 社	33,568 (6.0)	(4.8)	16,311 (6.6)	(6.9)	8,568 (10.2)	(11.3)	4,263 (5.2)	(5.1)
	民間借家	135,897 (24.4)	(29.3)	24,390 (9.9)	(10.7)	14,707 (17.5)	(20.3)	4,777 (5.8)	(5.7)
	社宅	16,213 (2.9)	(2.8)	636 (0.3)	(0.3)	252 (0.3)	(0.3)	224 (0.3)	(0.2)
	間借り	6,225 (1.1)	(1.2)	1,558 (0.6)	(0.7)	1,022 (1.2)	(1.5)	316 (0.4)	(0.4)
住宅以外に住む ・不詳		8,741 (1.6)	(1.3)	836 (0.3)	(0.3)	424 (0.5)	(0.5)	287 (0.4)	(0.3)

出典：国勢調査（令和2年）

③ 就業状況

本県では、65歳以上人口の25.0%にあたる約10万4千人が何らかの仕事に従事しており、2015（平成27）年に比べて4.5%上昇していますが、全国と比べると、1.7ポイント低い状況にあります。また、性別では、男性の34.3%、女性の18.4%が就業しており、男性の就業率が高くなっています。

また、圏域別では、対馬・県南・県央・杵岐の順で高齢者の就業率が高く、特に対馬圏域では29.1%と県平均の25.0%を大きく上回っています。

仕事の内容では、サービス業が30.4%と最も高く、次いで、卸売・小売・飲食等、農林漁業の順となっています。

また、本県で就業している高齢者のうち継続就業希望者の割合は82.6%で、全国の82.0%と同様に高くなっています。

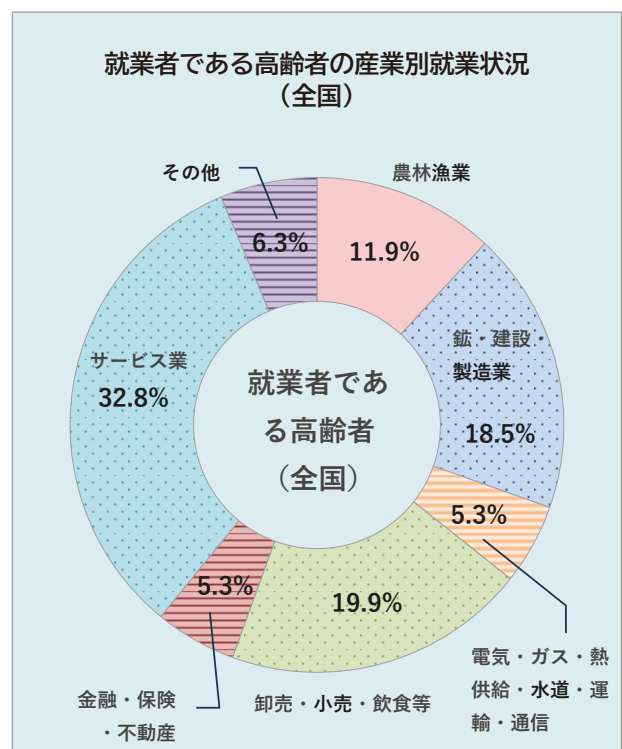
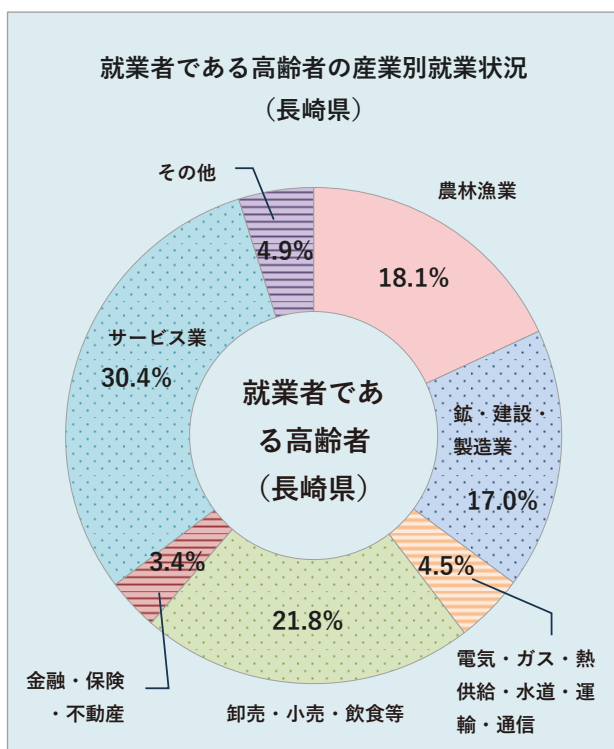
高齢者の就業状況

(単位：人)

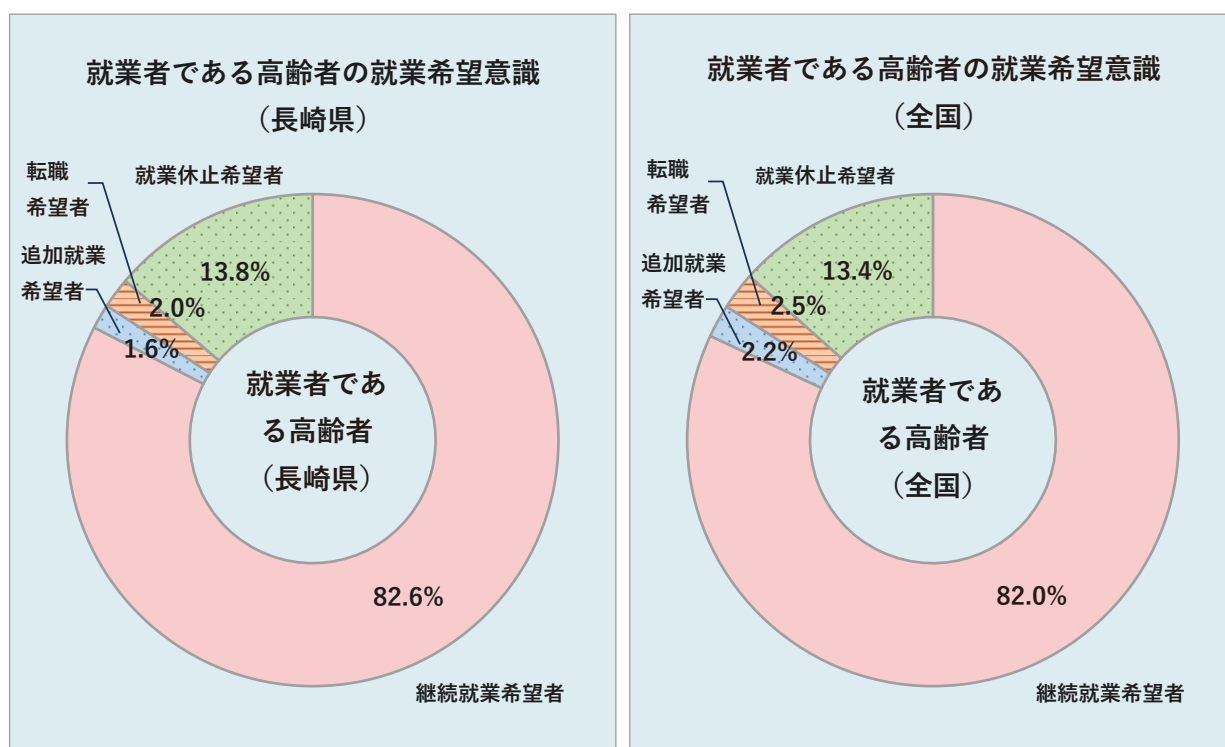
	R2 長崎県	老人福祉圏域		H27 長崎県	R2 全国 (千人)
		男	女		
65歳以上 人口①	433,018	181,777	251,241	407,139	36,027
65歳以上の 就業者数②	104,505	59,793	44,712	82,656	8,725
労働力状態等 「不詳」③	15,809	7,203	8,606	3,506	3,316
就業率 ②／(①－③)	25.0%	34.3%	18.4%	20.5%	26.7%

	R2 長崎県	老人福祉圏域							
		長崎	佐世保 県北	県央	県南	五島	上五島	壱岐	対馬
65歳以上 人口①	433,018	163,097	101,866	77,330	47,379	14,047	8,640	9,659	11,000
65歳以上の 就業者数②	104,505	35,510	25,148	19,910	13,465	3,047	1,737	2,540	3,148
労働力状態等 「不詳」③	15,809	6,463	3,510	4,131	735	499	2	281	188
就業率 ②／(①－③)	25.0%	22.7%	25.6%	27.2%	28.9%	22.5%	20.1%	27.1%	29.1%

出典：国勢調査（令和2年）



出典：国勢調査（令和2年）



出典：令和4年就業構造基本調査（総務省）

年齢別の有業率（ふだん収入を得ることを目的として仕事をしている人の割合）の推移を見ると、本県では60歳以上のいずれの年代においても、有業率の上昇が続いています。

